

| 今月の不動産経済 (2020年3月)

● 不動産業の動向

		前月比
不動産業景気動向指数 (DI) ^{*1}	31.6 p	△ 10.4 p ↓
		前年同月比
不動産業の倒産状況 ^{*1}	19 件	11.8 % ↑
負債総額 ^{*1}	2,608 百万円	△ 44.0 % ↓

● 新設住宅着工数

		前年同月比
新設住宅着工・総数 ^{*2}	70,729 戸	△ 7.6 % ↓
持家	22,327 戸	△ 0.3 % ↓
貸家	26,545 戸	△ 6.6 % ↓
分譲	21,220 戸	△ 16.1 % ↓
内マンション	9,500 戸	△ 28.7 % ↓

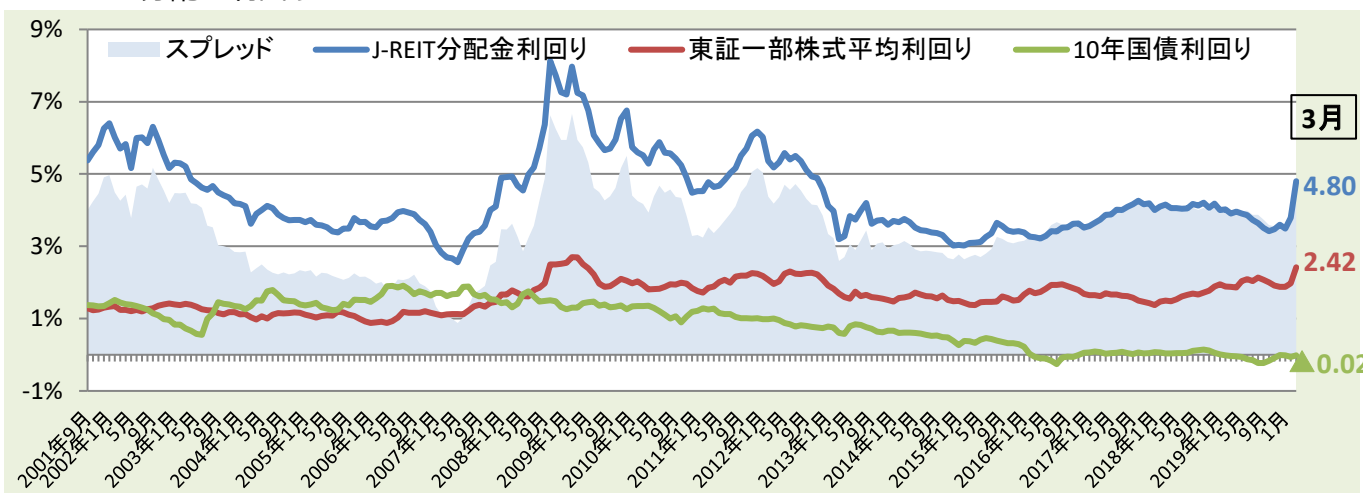
● マンション市場の動向

		前年同月比
新築・供給戸数 (首都圏) ^{*3}	2,142 戸	△ 35.8 % ↓
[契約率]	[70.0%]	△ 2.2 p ↓
平均価格	6,156 万円	△ 6.0 % ↓
新築・供給戸数 (近畿圏) ^{*3}	1,528 戸	5.5 % ↑
[契約率]	[69.2%]	△ 11.4 p ↓
平均価格	4,905 万円	11.4 % ↑
中古・成約件数 (首都圏) ^{*4}	3,671 戸	△ 11.3 % ↓
平均価格	3,489 万円	△ 0.0 % ↓
[㎡単価]	[54.1万円]	0.2 % ↑
中古・成約件数 (近畿圏) ^{*4}	1,865 戸	△ 3.4 % ↓
平均価格	2,310 万円	△ 0.5 % ↓
[㎡単価]	[33.5万円]	△ 0.9 % ↓

● オフィス市場の動向

		前年同期比 (賃料) / 前月比 (空室率)
オフィス賃料 (都心5区) ^{*6}	22,594 円	6.9 % ↑
オフィス空室率 (都心5区) ^{*6}	1.5 %	0.01 p ↑

● J-REIT分配金利回り^{*7}



不動産業の業況感は前月比 10.4p悪化し 31.6pとなった。景気判断の分かれ目の50を 18ヶ月連続で下回った。

新設住宅着工数は、9ヶ月連続で前年同月比減。

首都圏の新築マンション供給戸数は、前年同月比 35.8%減 (7ヶ月連続で減)。契約率は、70.0%。平均価格は同 6.0%低下 (3ヶ月ぶりに低下)。

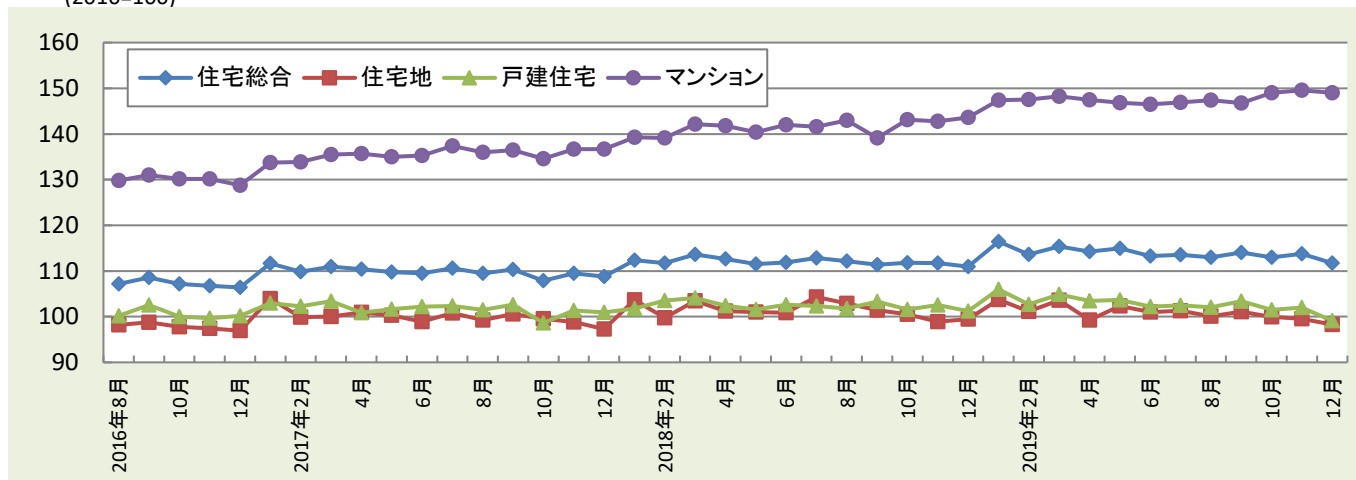
近畿圏の新築マンション供給戸数は、同 5.5%増 (3ヶ月ぶりに増)。契約率は、69.2%。平均価格は同 11.4%上昇 (2ヶ月ぶりに上昇)。

首都圏の中古マンション成約件数は 前年同月比 11.3%減 (3ヶ月ぶりに減)。近畿圏の中古マンション成約件数は 同 3.4%減 (6ヶ月連続で減)。

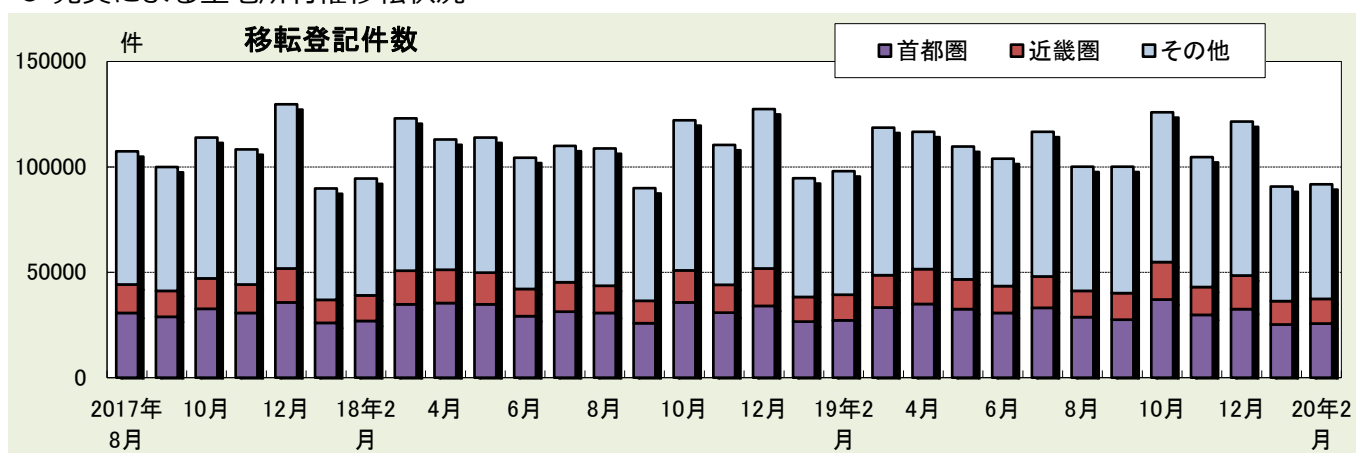
都心5区のオフィス賃料は 71ヶ月連続で前年同月上昇。オフィス空室率は前月比0.01p上昇の 1.50%。

● 不動産価格指数^{*2}

(2010=100)



● 売買による土地所有権移転状況^{*8}



*1 帝国データバンク (DIは0~100、50が判断の分かれ目)

*2 国土交通省

*3 不動産経済研究所

*4 不動産流通機構

*5 アットホーム

*6 三鬼商事

*7 不動産証券化協会、東京証券取引所、財務省 (スプレッド = J-RIET分配金利回り - 10年国債利回り)

*8 法務省

[今月の不動産経済](#)

[時系列データ \(excel\) ダウンロード](#)